



2月29日、3月1日、静岡県でビキニデー集会が開催されました。全労連青年部が参加するRing!Link!Zero 実行委員会は青年企画として、第一部分科会「若い力で核兵器のない世界と戦争法廃止を」、第二部「Ring!Link!Zero2016 in SHIZUOKA 集めよう戦争法と核兵器なくせの声 署名1000本ノック!」を開催。第一部には約50人、第二部には約60人が参加しました。

## ★第一部～分科会「若い力で核兵器のない世界と戦争法廃止を」



分科会では、冒頭、NHKドキュメンタリー「その時歴史が動いた『母たちの反核運動』」を視聴し、ビキニ事件やその直後の署名運動について学びました。

分科会のねらいについて説明した上で、戦争法と核兵器の関係について、①アメリカの「核の傘」の下で、核使用につながる戦争に日本が加担する恐れがあること、②今後野党共闘が進めば、これまで日本の安全保障の根幹を成すとされてきた「核の傘」からの離脱が問われてくることという2つの観点から報告しました。その上で、核兵器廃絶と戦争法廃止に向けた力として、①被爆の実相の普及、②署名運動、③青年の

独自の役割を問題提起しました。

その後、静岡県原水爆被害者の会会長の川本司郎さんが被爆体験を語り、被爆者が新たによびかける署名について報告しました。つづいて、日本福祉大学の川崎洋平さんが、自分が戦争法反対運動に取り組むようになった契機として被爆体験に触れたことが決定的だったことや、今後若者を運動に結集させるための工夫を報告しました。

質疑応答と討論では、①若い世代がどのようにして署名運動などに取り組むようになるのか、②若い世代を運動に巻き込むために必要なこと、といった点を中心に議論が盛り上がり、被爆者の川本さんに対してより詳しく思いを聞く質問なども出ていました。

討論のまとめの後、第二部に向けた署名宣伝行動の作戦会議を行いました。総がかり行動実行委員会が作成した署名ノウハウ動画の視聴や第二部で行う署名行動の具体的な説明が行われました。その後、4人一組のグループに分かれて役割分担や、どうすれば署名してもらえるかなど活発に討論が行われました。



## ★ 第二部～「Ring! Link! Zero2016 in SHIZUOKA

### 集めよう戦争法と核兵器なくせの声 署名 1000 本ノック!



4 人一組のグループで署名行動は静岡駅北口の出入り口近辺と地下通路の二手に分かれて行われました。宣伝からの参加者も加わり 4 人一組で宣伝グッズを手に道行く人に戦争法廃止と核兵器廃絶の署名と「安保法制についてあなたはどうおもう?」「核兵器についてあなたはどうおもう?」を聞くシール投票を訴えました。場所を限定して多くの参加者が一か所に集まることで通行する人々にシール投票や署名活動が印象付けられたのか、多くの人が足を止めチラシを受け取りシールボードに投票したり、署名をしてくれました。署名をしてくれた人からは「初めて署名する。TVで安倍を見ていて

腹がたってしょうがなかった、何かできないかと思っていた」「14歳で第二次世界大戦に参加していた。今の政府のやり方は本当に許せない。日本を滅ぼすつもりなのか!」など対話も弾んでいました。

最後に集合して対話内容を交流し署名宣伝行動を終了しました。シール投票 76 枚、核兵器廃絶署名 67 人、戦争法廃止 2000 万人署名 82 人が集まりました。

参加者からは「高校生の人が多く足を止めてくれた。みんな戦争法に問題あるという方にシールを張ってくれた。高校生たちが実態を見ていやだなと思っているのがよくつたわって署名を政府に

届けようと思った。」「地元ではこんなに反応がない、シール投票のシールが足りなくなるなんて初めて。」「反応がすごくいい、しっかりと対話もできるし楽しい。」などの感想が寄せられました。



## ★ 「忘れない3・11」渋谷ハチ公前キャンドルアピール



3月11日、青学連等が「犠牲者の追悼」「復興への決意」「原発をなくす」をメインテーマに渋谷ハチ公前でキャンドルアピールを行いました。キャンドルで描かれた「忘れない3・11」の文字を中心に集まった参加者は、キャンドル入りコップに鎮魂の思いや復興への願いなど様々なメッセージをよせ、通りがかりの人たちにもメッセージを書いてもらいました。「忘れないで声を上げていきます!! 頑張りましょう。未来の子どもたちのために」「3.11 忘れません。強く生きる。」

「Never give up!! もう既に5年...これからも頑張ろう!!」「仮設住宅で出会った人たちが今の自分を支えてくれています。この縁をこれからも大切に。忘れない3.11」等49ものメッセージが寄せられました。